慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ハイマン・カブリン編著『明治勞働運動史の一齣』: 高野房太郎の生涯と思想
Sub Title	Hyman Kublin (ed.) : Fusataro Takano and Meiji labour movement
Author	中村, 勝範(Nakamura, Katsunori)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication	1960
year	
Jtitle	法學研究:法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and
	sociology). Vol.33, No.1 (1960. 1) ,p.109- 113
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	紹介と批評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara _id=AN00224504-19600115-0109

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ハイマン・カブリン編著

明治三十年四月六日、職工義勇會の主催で神田において勞働者を

『明治勞働運動史の一齣』

――高野房太郎の生涯と思想――

本書の編著者、イマン・カブリン(Hyman Kublin)教授(Brooklin College 歴史學部教授)については、"Katayama Sen: the Birth of a Bolshevik"(『社會科學計究』第一卷第二號)、「高野房太郎——一勞働運動指導者の生涯と思想——」(『國家學會雜誌』第七十卷第七號)、「幸德秋水の一米人アナキストへの書簡」(『社會科學研究』第九卷第一號)などの筆者として、わが図のこの方面の研究者のあいだではあまねく知られている。カブリン教授は一九四七年にハーヴァード大學を卒業したが、その卒業論文以來、日本近代史の研究を手がけられ、今日では日本勞働運動史文以來、日本近代史の研究を手がけられ、今日では日本勞働運動史文以來、日本近代史の研究を手がけられ、今日では日本勞働運動史文以來、日本近代史の研究を手がけられ、今日では日本勞働運動史文以來、日本近代史の研究を手がけられ、今日では日本勞働運動史文以來、日本近代史の研究を手がけられ、今日では日本勞働運動史文以來、日本近代史の研究を手がけられ、今日では日本勞働運動史文以來、日本近代史の研究を手がけられ、今日では日本勞働運動史文以來、日本近代史の研究を手がけられ、今日では日本勞働運動史文以來、日本近代史の研究を手が出ている。

からなる。 本書は、教授がさきに發表された「高野房太郎一等働運動史の生涯と思想――」を支柱にして、大河内一男教授の「勞働運動史しにおける高野房太郎」および和文・英文による「高野房太郎――一勞働運動者

- れ、「高野房太郎年譜」とカブリン教授の「序」がある。梓に至るまでの經緯について----」が入交教授によつて執筆さ

(2) さらに詳しく記せば「口繪寫眞解説」と「あとがき----上

紹介と批評

濱商業學校に通つた。一八八五年伯父の死にあつた彼は、翌年アメをしていた家を火災で失い、高野は橫濱の伯父の店で働きながら橫かし二年後に父の死にあい、さらに二年後(一八八二年)には旅館歳のとき彼の家族は東京に移り父親は運送業や宿屋をはじめた。し歳野は明治の王政復古が行われた一八六八年に長崎に生れた。十

リカへ渡航する。

> 第組結成の教宣のため全國の重要都市を講演してまわつた。その 祭組結成の教宣のため全國の重要都市を講演してまわった。その 別じた。

書二七頁)。なぜならば、アメリカでは機械の 廣汎な使用によつてアメリカに十年の長きにわたつて留まり、職工義勇會を組織してアメリカの根本的な影響とは、ほかならぬ工業化とそれが文明のたアメリカの根本的な影響とは、ほかならぬ工業化とそれが文明のたアメリカの根本的な影響とは、ほかならぬ工業化とそれが文明のたアメリカの根本的な影響とは、ほかならぬ工業化とそれが文明のたアメリカの根本的な影響とは、ほかならぬ工業化とそれが文明のたである。高野は(當時の西歐を訪ねた日本人と同じく)「社會と見透しのついたセンスをもつていたが、この「彼の思想に及ばしと見透しのついたセンスをもつていたが、この「彼の思想に及ばしと見透しのついたセンスをもつていたが、この「彼の思想に及ばしと見透しのである。高野は(當時の西歐を訪ねた日本人と同じく)「社會ととである。高野は(當時の西歐を訪ねた日本人と同じく)「社會とのである。高野は(當時の西歐を訪ねた日本人と同じく)「社會の・經濟的制度としての資本主義に對する敵對者ではなかつた」(本書二七頁)。なぜならば、アメリカでは機械の 廣汎な使用によつて書こ七頁)。なぜならば、アメリカでは機械の 廣汎な使用によつて書によって

に寄興するものとしてこれを信賴し辯護した。本家には激しい非難をあびせるが、資本主義制度は人類の福祉增進本祭には激しい非難をあびせるが、資本主義制度は人類の福祉增進等働者の地位はひきあげられ、夢想だにしなかつた物質的知的利益

き、インテリや思想家の助力を期待したのである。 き、インテリや思想家の助力を期待したのである。 き、インテリや思想家の助力を期待したのである。 き、インテリや思想家の助力を期待したのである。

る。しかしカブリン教授は、この頃は勞働組合運動を發足させるにめの諸條件はすでに「熟している」 との結論に達 し た となつていと會の創立者たちはこの頃、日本に組織的な勞働運動を開始するた

八九七年に職工義勇會は再建されたが、これまでの定説による

勝利を記錄しつつあつた。

不利な條件のもとにあつたとされる。 高野は 勞働運動 の 諸條件が不利な條件のもとにあつたとされる。 高野は 勞働運動 の 諸條件の 医 で あ いなかつた片山潜、島田三郎、鈴木純一郎、佐久間貞一という名馨 的の職工義勇會であるから本質的には社會改良主義者の 集 り で あ 的の職工義勇會であるから本質的には社會改良主義者の 集 り で あ いなかつた片山潜、島田三郎、鈴木純一郎、佐久間貞一という名馨 いなかつた片山潜、島田三郎、鈴木純一郎、佐久間貞一という名馨 いなかつた片山潜、島田三郎、鈴木純一郎、佐久間貞一という名馨 いなかつた片山潜、島田三郎、鈴木純一郎、佐久間貞一という名馨 いなかつた片山潜、島田三郎、鈴木純一郎、佐久間貞一という名馨 いなかった と才能を有する人々が惜しみなく助力をあたえたのであつた。

の組織を促進する團體であり、勞働問題についての教育を勞働者には、組合を組織するにあたつて最も主要な問題は勞働者を彼ら自身は、組合を組織するにあたつて最も主要な問題は勞働者を彼ら自身の無知という束縛から解放することにある、という高野の信念のあらわれであつた。ともあれ勞働組合期成會の盡力でその年の末に鐵ちれであつた。ともあれ勞働組合期成會の盡力でその年の末に鐵つ他が誕生した。かくて約二萬名の勞働者が組織され、表面的にはついて出來た勞働組合期成會は勞働組合そのものではなく、勞組の他が誕生した。かくて約二萬名の勞働者が組織され、表面的にはの組織を促進する場合に、

動に一錢でも寄附することは浪費であると考え、使用者に對して正されている勞働者を麑醒させるのは困難であつた。勞働者は組合運しかし勞働組合運動も數世紀にわたる傳統や慣習や考え方に束縛

(111)

紹介

目的なものになつていつた。また「思想家」たちのあいだでも勞働ず、勞働組合期成會がこれを統合しようとすることは、ほとんど名ていた。いわんや勞働者の連帶感も、個々の勞組の枠の外まで及ば當な生産物の頒け前を要求することはなにか邪しまな企てだと考え

組合にたいする樣々な考えが擡頭して相爭う分派に分裂しつつあつ

向に轉換する努力を行える地位にあつた。

「いた。これに對してたとえば『勞働世界』の主筆で鐵工組合幹事野にとつては勞働者の眼前の條件を改善することだけに關心をよせ激情的ないし過激な發言を弄することは愚の骨頂と考えていた。高歌自身は、勞働者の組織が十分でなくまた政府の强力な腕がた。高野自身は、勞働者の組織が十分でなくまた政府の强力な腕が

のである。

教者になることは無意味であると考えた。ここで彼は運動から退くう致命的な打撃が加えられた。高野は運動の闘士ではあつたが、殉警察の魅力が加わり、さらに一九○○年には治安警察法の出現とい

つてもすててかえりみないという態度である。

以上は勞働者とその指導者內部の問題であるが、これに外からは

く知られていなかつたが、新資料十篇がわれわれの共有財産の中に高野の論文を收錄してあることである。和文の資料すら今日まで多二 本書がもつ第二の意義は、和文十篇、英文二十四篇からなる

に紹介するのを避ける。 「に紹介するのを避ける。 に紹介するのを避ける。 に紹介するのを避ける。 に紹介するのを避ける。 に紹介するのを避ける。 に紹介するのを避ける。 に紹介するのを避ける。 が う る に American かえられたことは何といつても喜ばしい。 加 う る に American

本書がわれわれに教える第三點は、日本近代史研究とはかぎ

み、はみ出したものが、枠にはまつたものの何倍、何十倍となくあめ、はみ出したものが、枠にはまつたものの何倍、何十倍となくありでは非常な勇氣がいるということである。今假りに日本近代史研究だらず、およそあらゆる研究において尊重されなくてはならない研究らず、およそあらゆる研究において尊重されなくてはならない研究らず、およそあらゆる研究において尊重されなくてはならない研究らず、およそあらゆる研究において尊重されなくてはならない研究らず、およそあらゆる研究において尊重されなくてはならない研究

もれていたのも無理からぬことである。カブリン教授が廣汎な資料と考えていなかつたり、高野が一切の階級闘爭、政治闘爭を避けたと考えていなかつたり、高野が一切の階級闘爭、政治闘爭を避けたと考えていなかったり、高野が一切の階級闘爭、政治闘爭を避けたと表えていなかったり、高野にして資本主義制度を打倒しよう

紹介と批評

るだろう。

ことを實證されても、今日の階級闘爭史觀にたつ學者は「事實に反ことを實證されても、今日の階級闘爭史觀にたつ學者は「事實に反ことを實證されても、今日の階級闘爭史觀にたつ學者は「事實に反ことを實證されても、今日の階級闘爭史觀にたつとは最善の方法であるによって高野等の考え方や運動が當時にあつては最善の方法である

(中村勝範) 七○○圓) (中村勝範) である。ただ残念でならないのは、同じ結論に達せられたとはいえ、カる。ただ残念でならないのは、同じ結論に達せられたとはいえ、カる。ただ残念でならないのは、同じ結論に達せられたとはいえ、カの小論でカブリン教授の「高野房太郎觀」にまつたく同調されていの小論でカブリン教授の「高野房太郎觀」にまつたく同調されている。 日本の學者は歐米の學者に露拂いをしてもらわなくては物も言えないような印象をうけるのが筆者だけであれば幸甚である。(有妻閣との小論に簡単にふれると、大河内教授もこの小論である。

_ =